ユビキタス
@nagano

Vol.50
長野県教育委員会事務局
心の支援課
2022年３月30日発行

今回は、「**デジタル・シチズンシップ教育**」について紹介していきます。今、児童生徒が情報端末を積極的に活用しながら、**自分の使い方について主体的に判断し行動する力**を育てる教育として注目を集めています。さて、「デジタル・シチズンシップ教育」とはどのような教育なのでしょうか？　「**情報モラル教育**」**とはどう違う**のでしょうか？

１　「デジタル・シチズンシップ教育」が話題となったきっかけ

「デジタル・シチズンシップ教育」という言葉が教育現場で話題になることが多くなったのは、文部科学省でNPO法人カタリバの代表理事・今村久美氏が行った「コロナ禍における教育」についての次の提言（令和２年４月）がきっかけだと言われています。

デジタル前提世代の子どもたちに、デジタル・シチズンシップ教育を推進すべき

デジタルか、アナログかという２項対立の中で大人が躊躇しているうちに、子どもはネットを使いこなし、リスクを理解せぬまま、無防備に振る舞う。

ＧＩＧＡスクール構想を実現する上で、デジタル前提社会で生きる子どもたちがそのリスクを理解し、安心安全に利用しながら可能性を広げられるように、『デジタル・シチズンシップ教育』の推進が必要。

現在の『情報モラル教育』は、個々の安全な利用を学ぶものであるのに対し、『デジタル・シチズンシップ教育』は人権と民主主義のための善き社会を創る市民となることを目指すものである。それは、個人のモラル教育ではなく、パブリックなモラル教育とも言える。利用を躊躇させる情緒的抑制から、賢く使う合理的活用ができる人材育成へと、転換をすべきである。

＊初等中等教育分科会（第125回）・新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会（第７回）合同会議「withコロナ社会において、いま検討すべきこと」　下線部引用者

「情緒的抑制」ではなく「合理的活用」へと指導の方向の転換を提言しています

２　「デジタル・シチズンシップ教育」と「情報モラル教育」の違い

両者は全く逆のものではないのですが、対比することで大まかな姿が理解しやすくなります。比較されることの多い項目の一部を挙げてみます

情報モラル教育		デジタル・シチズンシップ教育
車のブレーキ 使い過ぎないように抑制する	イメージ	車のハンドルとアクセル　目的地に向け自分で最善最適な手段を選ぶ
個人に向かう 心情・態度の育成、安全・健康	目　的	社会に向かう 社会的責任・共通理解、市民性・公共性
怖がらせる⇒「危うきに近寄らず」トラブルや被害を教える	方　法	考えさせる⇒行動の最適解を探す どうすればよかったのか考える

ここでは理解しやすいように対比的に紹介しましたが、「デジタル・シチズンシップ教育」は、「情報モラル教育」が大切にしていることも内包しています。ネットの危険性を教え、危険を前にしっかり止まることや、心身の健康もデジタル・シチズンシップ教育の大事なテーマです。

＊上図は『デジタル・シチズンシップ　コンピュータ１人１台時代の善き使い手を目指す学び』（2020年・大月書店）p79
芳賀高洋氏の表を参考に作成

3 「デジタル・シチズンシップ教育」で育成を目指す資質・能力

「シチズンシップ教育（市民教育）」が基本になっています。先に引用した文章の中で今村氏は「**人権と民主主義のための善き社会を創る市民となることを目指す**」と言っています。ここでいう「社会」は、私たちが「市民」として暮らす目の前にある「現実社会」に留まらず、「Society5.0 時代」に向け、「**デジタルの世界**」「**仮想の社会**」へと広がっています。「デジタルの世界」も「リアルの社会」も「善き社会」とするために、当事者として必要なことを学ぶのが「デジタル・シチズンシップ教育」です。

日本版「デジタル・シチズンシップ教育」は現在議論の途中にあるため、先行しているヨーロッパではどのようなことが教えられているかみてみましょう。

ヨーロッパの「デジタル・シチズンシップ教育」が育成を目指す資質能力

（欧州評議会「デジタル・シチズンシップ教育ハンドブック」より）

○価値観（人間の尊厳と人権、文化的多様性、民主主義・正義・公平・平等・法の支配）

○態　度（文化的異質性や他者の心情・世界観・異常行動への多様性、敬意、市民的マインドネス、責任感、自己効率感、曖昧さへの寛容）

○スキル（自己学習スキル、分析・批判的指向スキル、聞いて観察するスキル、共感力、言語的・コミュニカティブな多言語スキル、共同スキル、葛藤解決スキル）

○知識と批判的理解

（自分についての知識と批判的理解、言語とコミュニケーションについての知識と批判的理解、世界・政治・法・人権・文化・宗教・歴史・メディア・経済・環境・サスティナビリティ―についての知識と批判的理解）

＊坂本旬前出Ｐ２～「デジタル・シチズンシップとは何か」を参考に作成

このような教育が必要とされる背景には、問題とされる事実（ゲーム・ネット依存、差別発言、性被害、ネットいじめやフェイクニュース等）があるからです。日本で起きている子どもとネットの課題は、日本だけで起きているのではなく、世界のあちこちで、現在進行形で克服に取り組んでいる課題なのですね。

人権、公平・平等、責任など、ここで挙げられているもののほとんどは、ふだん教室で大切にされているものと同じです。情報リテラシー専門家の小木曽健氏は「**私たちが『ネットモラル』と呼んでいるものって、日常のモラルと同じもの**」（『13 歳からの「ネットのルール」』2020 年メイツ出版 P8）として、ネットと日常で態度や行動を分けるべきではないと言っています。デジタル・シチズンシップ教育も「日常でもデジタルでも同じように、この社会の一員として尊重するべきこと」についての教育と理解してよいでしょう。

4 「デジタル・シチズンシップ教育」のこれから

総務省の「STEAM ライブラリー」で、令和４年３月に「デジタル・シチズンシップ教育の教材」が公開されました（https://www.steam-library.go.jp/）。県内にも令和４年度の児童生徒のネット利用に関する指導方針に「デジタル・シチズンシップ教育」を盛り込んでいく予定の市町村があります。GIGA スクール構想のもと一人一台端末が実現し、児童生徒のネット利用に関する指導は社会から注目されています。新しい動きについては、注目していく必要があるでしょう。

5 より深く知るために【参考 HP】（上記以外のもの）

- 「『デジタル・シティズンシップ教育』とは？」（https://kyoiku.sho.jp/109490/）
- 「日本に根づくか？『デジタル・シティズンシップ』」（https://comemo.nikkei.com/n/nca9d7083ede9）

「ユビキタス@ｎａｇａｎｏ」のバックナンバーや指導資料などをダウンロードできます。

長野県教育委員会ＨＰ　＞　生徒指導　ＵＲＬ　https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/shido/index.html

心の支援課　Tel:026-235-7450（直通）　Fax:026-235-7484　E-mail:kokoro@pref.nagano.lg.jp